



芳工連だより

‘16/01
第139号

□ 発行 芳賀町工業団地連絡協議会

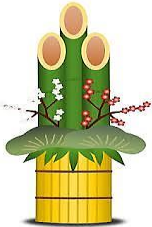
□ 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 98

□ TEL 028(677)5033

□ <http://www.hokoren.com>

□ E-Mail : information@hokoren.com

□ 編集責任者 七井 真人



新年おめでとうございます。

昨年は大変お世話になりました。
本年も芳工連の活動にご理解ご協力をお願い申し上げます。

芳賀町工業団地連絡協議会 役職員一同



新年のご挨拶

芳賀町工業団地連絡協議会 会長 小川 審也

明けましておめでとうございます。

平成28年の新年を迎え心よりお祝い申し上げます。

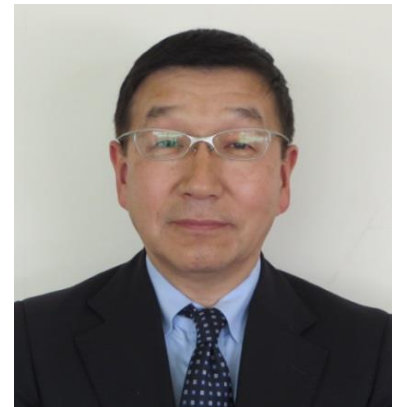
昨年の芳工連の活動では、栃木県をはじめ芳賀町様のご支援ならびに会員企業様のご協力のもと、4部会を中心に活動ができたことをお礼申し上げます。

新年のご挨拶にあたり、今回は「これからの変化」について将来を眺めてみたいと思います。昨年11月、厚生労働省の雇用政策研究会が2030年の労働力推計を発表しました。今後国内経済がゼロ成長を続け、女性や高齢者の労働参加が進まない場合、就業者数は2014年時点と比較して790万人減少し約5561万人になる。製造業は874万人となり130万人労働力が減少する見通し。産業別では医療・福祉分野が163万人増え製造業を上回り卸小売業は253万人減少するという内容です。同研究会では長時間労働の抑制など、働き方改革を通じ女性や高齢者の雇用を増やすべきと指摘しています。

実は、昨年読んだ『WORK SHIFT』（ロンドン ビジネススクール教授/リンダ・グラットン著）には、10年後の私たちを取り巻く環境の変化と働き方がテーマになっており、2025年に私たちがどのように働いているのかが具体例をもって専門的に分析されています。簡単にご紹介すると本書では未来を形成するものとして、

1. テクノロジーの進化（50億がインターネットでつながる、ロボットや機械制御による介護システム、人工知能の普及）
2. グローバル化の進展（市場競争の世界規模化、貧困層の出現）
3. 人口構成の変化と長寿化
4. 社会制度の変化
5. エネルギーと環境問題の深刻化

この5つの要因の進化や変化が複雑に絡み合いながら未来が形づくられていくと分析しています。この挨拶原稿の構成から「人口構成の変化と長寿化」をかいつまんで紹介します。これまで近代社会が想定してきた人の寿命は70～80歳で、それを前提として現在の結婚や就職、退職といっ



た社会構造が成り立っている。寿命が100歳まで伸びてきたということは、現在の制度がすでに成立しなくなっており、社会制度そのものの改革が必要になっている。企業の在り方も根本から変わらなくてはならない。と論じています。

既に日本は2005年から人口減少局面に入り少子高齢化が進行していますが、2030年には65歳以上の高齢化率は31.8%と予測されており、3人に1人が高齢者という社会になります。さらに2055年の高齢化率は40.5%。全人口は8900万人になると試算されています。現在、高齢者を取り巻く環境は年金受給の段階的移行制度により、再雇用制度から定年延長を導入する企業が増えていくと思いますし、これからは引退を自ら決める時代になっていくと感じています。

また、女性の働き方についても「夫は外で働き、妻は家庭を守る」といった、これまで日本社会では当然とされた考え方も変わってきています。最近ではそう思わない人が半数を超えています。しかし意識の変化に社会の仕組みが追いついていない現実もあり、ご存知のように政府は男女共同参画基本計画（10年12月）で『20年までに社会のあらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度にする』という目標の達成を掲げています。

一方、このような人口構成の変化に伴う課題に対し、ハード面では日本の最先端技術を活用していくことが注目されています。それは世界トップのロボット技術をはじめ、2020年に実用化を目指して開発が進んでいる自動運転技術も私は活用できると思っています。これら技術の要素である駆動技術、認識技術、制御技術、知能化技術に、デジタル技術やネットワーク技術を活用することで、モノとモノがネットワークで結びつき、それをスマートフォン用のアプリで動かすことも多くの分野でトライされています。これら最先端技術の活用により、医療の現場ではより高度な医療技術の提供や、介護の現場等では人体への負担を軽減するパワーアシストスーツ（ロボットスーツとも言われている）が、女性や高齢者の就業の場を広げる期待もあります。他にもインフラ・災害対応、建設現場、農業など幅広い分野での活用が注目されています。さらにロボットがより人間に近づくことで、日常のコミュニケーションや家事などの生活支援、また新しいインフラやサービスの創出により、さらに利便性の高い社会システムへの移行が期待されています。

ちなみに、『WORK SHIFT』の著者リンダ・グラットンにより、環境の変化に適応していくためには、第1、第2、第3のシフトへの「働き方の転換」が必要と論じています。いま必要な働き方の1つ目（第1のシフト）は専門性を高める。2つ目は共同作業によるイノベーションを起こす。3つ目は価値観を変える。それはこれまで是としてきた「働いて稼いだ賃金でモノを買って幸福感を得る」ことではなく、働くという行為で大切なことは、自分が意味があると思えることに情熱を注ぎ幸福感を得られるようになること。既に先進国では「働いて稼ぎ、それで物を買って幸せを感じる」という「古い約束事」は破たんしている。環境への配慮から大量消費への逆風も強くなっている。と論じています。この考え方は、いき過ぎた効率化や利益優先による行き詰まりを切り開く鍵になると思いました。ぜひ興味のある方は『WORK SHIFT』を読んでみて下さい。

いま私たちの社会は人口構成が変わり制度や働き方が大きく変化していく時期に入っています。変化に向けて対処すべき課題は無限にあります。私たちは高い志を失うことなく悠然と構え、景気の良し悪しに振り回されることなく、明るい気持ちで新年のスタートを切りましょう。

結びに、今年も多大なるご協力をいただきますようお願い致します。また会員皆様の益々のご繁栄を祈願して、新年のご挨拶とさせていただきます。

参考資料・文献

厚生労働省（厚生労働白書）、経済産業省（ロボット新戦略）

WORK SHIFT（トド ビジ 初スクール教授/リンダ・グラットン著）

PRESIDENT Online <http://president.jp/articles/-/7240>

■ 第3回役員会開催

12月11日 第3回役員会を開催しました。冒頭、小川会長が「本田技術研究所四輪R&Dセンターでは12月7日より働き方改革を行っています。これは、これまでの長時間勤務から、それぞれがライフワークバランスを考えた仕事の仕方に切り替え、より創造的な仕事につなげるようにするものです。

現在は帰宅時間をこれまでより2時間早めた

トライを行っています。従って、一斉退社時間となる19時には交通渋滞も懸念されるが、芳工連各企業皆様の御理解をお願いしたい」と挨拶しました。

今回は4部会長（副部会長）の同席により、事業実績等のご説明をいただきました。審議された内容と決定事項は次のとおりです。

(1) 賀詞交歓会について

平成28年1月15日（金）午後5時からホテル東日本宇都宮において開催します。ご招待の来賓、次第、役割及び担当者を決定しました。

(2) 栃木県知事との意見交換会について

栃木県工業団地管理連絡協議会主催により、平成28年2月8日（月）宇都宮市内で知事との意見交換会が開催されます。県内8工業団地の代表者が福田富一知事と意見交換を行います。

その際、会員企業様から栃木県知事に対する意見・質問があれば集約し、小川会長から発言いただくことになりました。また、景気動向に係る調査票を立地企業様に送付し、景気動向の実態を把握した上で小川会長がご説明することを決定しました。

(3) 各部会の事業進捗状況及び課題等について

各部会代表者の説明概要は次のとおりです。

総務企画部会は吉富孝司副部会長（(株)本田技術研究所四輪R&Dセンター）が、「新入社員研修や初級管理者研修など人材育成研修、ゴルフ大会やボウリング大会など会員相互のコミュニケーション向上に資する事業を計画どおり実施できた。トピックとしてリーマンショック以降は実施していなかった全体研修会を復活できた。」と説明しました。

環境整備部会は正木尚部会長（東洋濾紙（株）芳賀工場）が、「立地企業全社の協力で3回のクリーン作戦を実施するなど環境美化に資する事業を実施できた。不法投棄による被害を受けている企業があるので、警察や町と連携して再発防止に努める。」と説明しました。

安全衛生部会は稲森真樹部会長（ホンダ開発（株）栃木事業部）が、「普通救命講習会を5回実施しているが、毎回多くの申込みがあり、安全に対する意識が高い。



また、危険予知訓練を昨年度に続いて実施し、ゼロ災害運動の要となる訓練への理解が高まってきている。」との説明がありました。

交通防犯部会は西東竜也部会長（（株）本田技術研究所四輪R&Dセンター）が次のような説明をしました。

「国内で交通事故死は毎年確実に減少してきているが交通事故による経済的損失は6兆円となる。交通事故発生率を走行距離で見ると日本は安全な国とは言えない。交通事故を含む災害発生率が高い企業の商品を消費者は選ばない。安全は企業の生命線である。

交通渋滞緩和、交通事故撲滅を重点活動とするなかで、警察署、土木事務所、県庁等への陳情を例年以上に実施した。

その結果、信号機の時間調整や車線変更により、テクノ街道や御料牧場などで渋滞解消されてきた。また、予てから交通事故が発生しているバイパス交差点に年度内には信号機を設置することが決定した。

今年度から、路線バスへ交通安全啓発のエプロン貼付、会員の社用車へ磁気ステッカー貼付なども新たに取組んだ。」と説明しました。

(4) その他

事務局長七井が、役員任期満了にともなう手続きについて、芳賀町賀詞交歓会への参加について、お知らせしました。



■ LRT事業計画の説明会を開催

12月11日 工業団地管理センター大会議室においてLRT事業計画説明会を開催しました。LRT事業計画に関する疑問や不安が会員企業様から寄せられていることから、具体化してきた導入ルートや交通渋滞対策等について芳賀町からご説明いただきました。

去る11月6日に宇都宮ライトレール株式会社が発足し、2019年度運行開始に向けた推進体制が本格化したこともあり、説明会には25社32名の参加がありました。

冒頭の挨拶で菱沼建設産業部長兼都市計画課長は、「LRT事業計画について国・県・県警本部との協議が進み、1月には都市計画決定に向けた手続きを開始する予定であり、その後、国へ特許申請する。まちづくりのため必要となる大規模事業であり、工業団地に立地する企業の御協力と御理解なくして成功はないので、ぜひとも皆様のご配慮をいただきたい。」と述べました。

大峯市街地整備係長からは、LRTの特徴、導入ルート、導入空間、施工ステップなどについて次のような説明がありました。

導入空間については、交通の円滑化や安全性を考慮する関係機関との協議を踏まえ、速達性、経済性、周辺交通への影響、沿線企業の利便性



などの観点から、県道宇都宮茂木線並びに町道 0114 号線とも道路中央部に導入する。

芳賀町区間には、芳賀台交差点付近、工業団地管理センター前交差点付近、かしの森公園交差点付近、本田技研北門付近の 4 箇所に停留所を設置する。

宇都宮茂木線は中央部に L R T を導入し、4 車線を維持、歩道幅は両側とも 7.0m から 3.75m に縮小する。現状 30m の幅員があるため、用地買収は交差点部や停留所付近等の一部の箇所となる予定。管理センター前交差点から北へ本田技研北門付近までの町道 0114 号線は中央部に L R T を導入し 4 車線を維持、歩道幅は両側とも 4.5m から 2.5m に縮小する。現状 25m の幅員であり、必要な幅員は 27.5m 以上なので不足する分を用地買収する。県道・町道部とも路肩部分に 1.5m の自転車通行帯を設ける、などが主な説明内容です。

参加者からは、主要交差点の通行ルート、信号機パターン、着工時期、交差点右折レーン対応、用地買収の具体的な時期、さくら並木を残す方法、町道部分の計画の再考、などについて質問がありました。また、課題を整理した上で再度説明を求めたい旨の意見も出されました。

町担当者から、それぞれの質問に回答をいただきましたが、今後の関係機関協議等を踏まえ、改めて説明が必要な事項もありました。

最後に町担当者から、今後も芳工連に対する説明会を開催し、理解を深めていただくよう考えている、との説明がありました。

■ 全体研修会を開催

総務企画部会が主催する全体研修会を 11 月 4 日開催したところ 16 社 25 名の皆さまに参加いただきました。

今回は、芳工連の会員企業とは異業種の業態を選び、横浜港クルージングレストランのホスピタリティーや麒麟ビール横浜工場における品質管理などを現地で体験し、会員企業が事業運営のヒントを得る研修です。

バス車中で中山克夫総務企画部会長は、「人材育成やコミュニケーション向上など、芳工連活動が充実できる事業を企画している。2008年のリーマンショック前に実施していた今回のような研修を今年度は復活した。会員企業様に各種事業に参画する意義を感じていただけるよう、今後も皆さまのご要望に沿って部会運営をします。本日も有意義な研修となるよう願っている。」と挨拶しました。

初顔合わせの参加者が多かったのですが、車中での会話を楽しみながら目的地に向かいました。クルージング船で横浜港を巡航しながら昼食を楽しむ企画では、洗練された心からの接客サービスを体験することができました。

麒麟ビール横浜工場は首都高速道路に囲まれた中ですが、樹木の多い公園を併設した大規模なビール製造工場です。

見学で、ビール生産ばかりでなく医薬分野まで多様なイノベーションを発揮し、「食と健康」の分野でグローバルな事業展開を行っていること。また、地域社会と共に発展し、自然環境を守り育てる麒麟・グループのビジョンを紹介いただきました。



ビール生産現場の見学では、精緻なマーケットリサーチに基づき、お客様ニーズを見据え、高度なモノづくりの技術をベースに、お客様の期待に応える高い品質を追求している企業精神が伝わりました。

お客様本位、品質本位を貫く一方、1907年創業という歴史ある企業ながら、柔軟かつスピーディーに環境への変化に対応するグローバルな事業展開が印象に残りました。

今回の研修は、若手から管理職まで幅広い年齢の皆さまが参加され、会員相互の親睦を図りながら、サービスの完成度に感心するとともに、品質の高い商品の開発・製造・販売に関する柔軟かつ緻密な企業戦略に触れることができました。参加された各会員企業の皆さまにとっても業務運営の参考になったことと思います。



■ 安全衛生活動事例発表会

12月16日 安全衛生部会の主催による安全衛生事例発表会を開催しました。稲森真樹部会長は、参加いただいた30社43名の皆さまと真岡労働基準監督署長に謝辞を述べ、「活動事例を参考に会員企業様においても安全衛生活動向上の一助にさせていただきたい。安全衛生部会では、普通救命講習会やKYT研修など安全衛生向上に資する事業を実施している。引き続き安全衛生活動で成果が得られる事業に取り組むのでよろしく願います。」と挨拶しました。

■ 事例発表の概要

(株) 関電工北関東・北信越営業本部栃木支社 安全環境品質管理リーダー直井弘様から次のような発表がありました。

(株) 関電工は建築・土木・設備に係る建設業の会社であり、そのなかでも電気を主体とした設備事業を展開している。

設備には電気、照明、ガス、給排水、空調、防災、通信の部門がある。建物は人間でいえば骨格にあたり、消化器が人間の生命維持機能を果たすのと同じような役割を建物で設備が果たしている。そして、電気は人間でいえば血液にあたる。このように設備は建物に命を吹き込む仕事である。

社員6,500人のうち約8割が技術・技能職であり、関東全域の電力インフラの維持及び設備を担い業界トップクラスの実績がある。

安全衛生に関するスローガンとして、①安全行動の習慣化、②品質行動の習慣化を掲げている。これは空気を吸うのと同じように無意識にできるようになることを意味している。これを毎年継続する。また、安全行動10か条を策定し、作業前の健康チェック、作業計画書の確認など基本的なことを確りと行っている。各部門でも安全行動を策定している。例えば、脚立は使用しない基本があり、止むを得ず使用する場合は上司の許可を求める決まりがある。



ヒューマンエラー防止のため、社員が同じ情報を共有し、具体的な指示に基づく行動を徹底している。これからも災害が発生しないよう全社を挙げて取り組んでいく。

■ 真岡労働基準監督署 高橋署長の講演概要

管内の労働災害は11月末で死傷者115件、うち死亡は1件である。死亡者数は昨年より2人減であり、毎年減少傾向にある。

全国の死亡災害発生状況は、昭和36年の6,712人をピークに、それ以降は減少傾向にある。特に労働安全衛生法が施行された昭和47年以降は減少傾向が顕著になっている。昨年の死亡者数は1,057人であった。災害発生の原因として産業構造の変化や高齢者の増加が考えられる。

労働災害における事故の型は、現在は転倒災害が全体の20%以上を占めトップである。以下は墜落事故が17%、挟まれ13%となっている。死亡事故が一番多いのは転落・墜落事故によるものである。

これから、高齢者や女性の活躍が求められることから、それらの労働者が安全に働ける労働環境の整備が必要になってくる。

2015年12月からトレスチェックが義務化された。メンタルヘルス不調を防いで生き生きとした職場環境を実現いただきたい。



■ 全国安全衛生大会参加レポート

去る10月28日から30日までの3日間にわたり中央労働災害防止協会が主催する全国産業安全衛生大会が愛知県名古屋市内を会場として開催されました。

芳工連では今年度から、中央労働災害防止協会が主催する全国産業安全衛生大会に参加し、労働者の健康管理や職場環境の改善など産業安全衛生に関する意識を得、優良事例等の情報発信により、芳工連会員事業所の自主的な産業安全衛生活動推進に寄与いただける企業に対し補助金を交付することになりました。

本年度はホンダ開発(株) 栃木事業部様が参加されましたので、補助金交付要綱に基づき全国大会のレポートをお願いしました。

管理課長の稲森真樹様が、会社概要、安全衛生の取組、全国産業安全衛生大会の事例発表を参考として取り組んでいきたい対策などを発表されました。

本田技研工業(株)の子会社として1959年創業し、栃木事業部を1978年開設した。ホンダグループ社員さんの福利厚生を担っている。不動産建設部門、保険部門(自動車保険、輸出保険等)、トラベルサービス部門、ケータ



リングサービス部門、その他部門（コンビニなど）の業務を行っている。

安全衛生委員会を設置し、その下で労働安全GR、交通GR、衛生GRがそれぞれ活動している。具体的には、①従業員から収集したヒヤリハットデータを基に職場巡視を実施している。②安全運転宣言カードによる交通安全活動を実施している。③4半期ごとに災害防止に関する情報紙を発行している。また、健康推進イベントも毎年実施している。

全国安全衛生大会で事例発表206の中から参考となる12の事例発表を2日間で研修した。そのなかで、参考にしたい事例が三つあった。

一つは、ヤマハ発動機(株)様が採用している、台車による事故の防止である。弊社でも台車使用中の事故が発生しているため、台車使用基準の作成及び台車使用教育の徹底をすることで災害防止に努めることにする。

また、リスパック(株)様、サンデン・ビジネスエキスパート(株)様が実践し効果を高めている指差し呼称の徹底である。食堂部門で使用しているフードスライサーなどの調理器具使用時の事故防止を徹底するため、職場における指差し呼称、指差し唱和を実践することで、安全意識改革を推進することにする。また、KYT研修を社内独自で実施し、安全衛生意識の向上を図り災害防止に努めたい。

■お知らせコーナー

(1) 工業団地立地企業景気動向調査について

12月17日付け芳工連第107号の文書で景気動向調査をお願いしました。これは、調査結果を集計・分析し、芳賀工業団地立地企業の景気動向を2月に開催される県知事との意見交換会で説明し、必要な県産業施策について意見交換する資料とさせていただくものです。

誠に恐縮ですが、1月15日（金）までに調査票に必要事項をご記入の上、ファックスで事務局へ送信くださるようお願いいたします。（送信先 FAX 028-677-5035）

(2) 芳工連賀詞交歓会の開催

平成28年1月15日（金）午後5時からホテル東日本宇都宮において、芳工連の賀詞交歓会を開催します。迎いのバスが午後3時45分に芳賀町役場駐車場、午後4時に工業団地管理センター、午後4時20分にJR宇都宮駅東口を出発しますので、ご利用ください。

お問い合わせは事務局（TEL028-677-5033）までお願いいたします。

芳工連日誌

【12月の実績】

- 4日 芳工連全体研修会
- 11日 LRT事業計画説明会
- 11日 第3回役員会
- 11日～31日 交通安全県民総ぐるみ運動
- 16日 安全衛生事例発表会
- 16日 資源ごみ回収
- 28日～1月4日 年末年始休暇

【1月の予定】

- 5日 仕事始め
- 6日 芳賀町賀詞交歓会
- 15日 芳工連賀詞交歓会
- 19日 普通救命講習会
- 22日 団管連幹事会
- 27日 資源ごみ回収